九・一五大集会に参加して

去月十五日の敬老の日に、東京九段の〝武徳殿〟で「七二年、健康で安心できる老後をつくる九・一五大集会」が開催され、全国から三万人がかけ集まって、「老後の生活の土台となる〝年金制度〟の改善」をめざし、全国的に運動をもりあげることを誓い合った。

この集会に、〝三池退職者連協〟から、代表として中村人治さんが参加したが、その手記は次の通りである。

俺達は古雑布ではない

返上しよう、見せかけの敬老の日

退職協　中村人治

三万人の参加者で一ぱいだった武徳殿の場内は熱気に溢れ、全逓・全農林・全日自労などの組合旗が印象的であった。

社会、共産、公明、民社各党代表も顔を見せ、各党それぞれに表現こそ違え、老人対策の緊急性を強調し、対策の法制化を勝ちとるための決意を表明した。

法制化の中心となる要求は、何といっても

(1)年金額の大幅引上げ、スライド制確立を中心とする年金改善。

(2)老人無料医療制度の改善。

(3)高令者のための仕事と住宅の保障。

などが、つらぬかれなければならない。

大集会での基調報告は、昨年の一万人集会から今日までの一年間の運動の成果を総括して述べた。

(1)老人医療の無料の法制化を勝ち取り、この運動は引き続き乳幼児の無料医療化へと発展している。

(2)年金改善要求の運動は、第六十八国会で〝福祉年金〟三千三百円の値上げを決定させた。

(3)さらに厚生年金の改善について、何らかの形で計画せざるを得ないところまで追いこんでいること。

(4)高令者の組織化については、昨年〝退職者の会〟は全国で六万人の組織化に成功し、年内にはさらに二十万人を越える大組織として、正式に統一組織としての発足が予定されていること。

最後に私たちは、次のような申し合わせに満場一致合意した。

(1)過去一年間の運動の経験と教訓を生かし、運動をさらに自信をもってひろげていこう。

(2)老後の生活の土台となる〝年金制度〟の改善を最重点に、運動をすすめよう。今秋から来年にかけてもてる力をフルに動かし、署名、地方自治体の決議や意見書、自民党への要求の手紙を出し、また交渉には積極的に参加するなど、創意と英知にあふれた、あらゆる行動を起こそう。

(3)——略。

(4)一千万人署名運動を、必ず成功させよう。この署名を土台に、三千四百市町村のすべてで「自民党政府は全力をあげて、年金、無料医療、仕事、住宅の保障をはかれ」、という〝決議〟〝意見書〟を採択させよう。この二つの計画は、十二月までにはぜひやり遂げよう。

(5)——略。

(6)あらゆる要求行動を積み上げていくなかで、適当な時期に、政府とのマンモス交渉を行なおう。

この時期には全国いっせいに、県市町村などの地方自治体で〝老令保障確立〟の嵐をまき起こさなければならない。

中村さん

渡部さんから贈られてきたアイヌの木彫り。男と女の姿であろう。

北海道から木彫りの贈り物

▼…このほど、北海道旭川水道労組執行委員の渡部明さんから、〝アイヌの木彫り〟が贈られてきた。（写真参照）

渡部さんたちは、三池の労働者とぜひ交流したいと来年を計画中だったところ、台風のため目的が果たせず、お土産げとして準備したのが、アイヌの木彫りだったわけで、こんどはそのおみやげだけが届けられたわけである。

渡部さんの、木彫りに託してしたためられた便りいわく——「台風二〇号のため丸一日東京に放り出された関係上、三池労組に寄ることができなく残念です」と。

お礼とともに、どうかぜひおいでください、とお願いしておこう。

このような申し合わせで集会をしめくくったが、なるほど集会そのものの意義こそ認めるとしても〝一日集会〟のあっけなさを感じたのは、私だけではなかったろう。きたる集会は、もっと充実した、権威ある集会にすべきと思う。

終わりに、参加者全員が感動した大集会の意義をアピールした詩を抜粋して、この稿を閉じることにする。

×

枝がとがり枯葉が落ちる
重たい秋のかなたに
果てもなく遠い道がある

この一年私たちは生きた
定年制で放り出され
年金で食えないから働き続け
ボロボロになった靴底をながめ
大きなため息をもらした
にっちもさっちもいかなくなるまで
医者にゆくまいと心にきめる毎日

みせかけの〝敬老の日〟
政府にとって田中首相にとって
大資本家と自民党政府の
バリケードの彼方に

私たちのゆく道がある
果てもなく遠かった道が
いま目の前にある

さあ腕を
数千万本の腕をのばそう
明るい夜明けの彼方に
権力の支配する九月を
私たちの手にとりもどそう

×　×

×　×

私たちはいったい何だ
私たちは人間ではないのか
私たちは古ぞうきんなのか
私たちは……

私たちは一年前の今日
黙ってあきらめることに別れを告げた。
力を合わせて闘うことを誓い合った

どうだいこのマンモス集会
この熱いふれ合い
輝く年輪の太さ
湧き立つ呼び声
力強くたしかな実りに向けて
私たちの隊列は進む

今すぐ
生活できる年金よこせ
完全無欠の老人無医療制度をつくれ
楽しく働ける仕事と住宅
定年制延長、退職金の大幅引き上げ
四次防止めて老人福祉を

売り場で思うこと

東谷分会　蓮尾文子

正午きっかりに、私の半日の生活がはじまります。

早いもので、箱入り娘ならぬ箱入り妻の私が馴れぬ仕事について九カ月。人から、「朝早くから仕事に出て、夕方疲れて帰る主婦の気持は、ご主人の給料で暮らしているあなたにわかるわけがない」、といわれたことがある。「なーに、わかるさ」、と力んではみたけれど、以来心にひっかかってきた悩みでした。

夫と相談した末、デパートのパートに応募したら、少しばかりの和服の知識のおかげで採用されました。

デパートのかき入れどきは、土、日、それに祝祭日。ふだんの日の欠勤は、前日に申し出ればなんとかもらえるけれど、かき入れの日の欠勤は、急病にでもならないかぎり仲々もらえません。そのため主婦会運動も、家庭の仕事も、机上での考えのようにうまくいかぬ事を痛切に感じている今日このころです。

職場は若い人ばかり。労働組合はあっても、賃上げの時だけ存在しているようで、遊ぶため着るために、毎日家とお店の間を往復。良縁があったら、結婚にゴールイン。何とまあ、ストレートな生活でしょう。

私たちの青春時代はといえば戦争の名残りから不自由だらけでした。それでも新しく、何もかもが生れかわる時代でしたし、しみじみと〝平和〟というもののありがたさをかみしめたのでした。

家庭に入り主婦となってからは、懸命になって政治と暮らしの結びつきを、自分のものにしようと努力してきました。とまれ、娘や息子たちに、いばって引き渡せる社会にしたいと思っています。

でもその前に、どうすれば若い人たちとの対話がもてるか。今日も売り場に立って考えています。どなたか、よいお知恵を貸して下さいませんか。

蓮尾さん

この欄は主婦の皆さんのもの。どしどし生活と意見を！

坑内は——キャバレーか

最近、鉱長室（宮浦鉱の）から〝無線〟を通して、坑内にまでもキャバレーなみの退廃的なミュージックが流れてくるようになりました。

私たちのシールド自走枠払も危険がいっぱいの職場であるのですが、無線を通じて流れるミュージックのために、何となく青い灯赤い灯の気分になり、職場に渦まく不満もいつの間にかわすれてしまいます。

このようなミュージックといえば、四山鉱へ行かれた方はすぐ気がつきますが、一歩門を入るといや応なしに、ボリュームいっぱいのジャズ、マンボの曲が流れています。

宮浦鉱でも、こうして〝ZD〟が入りこみ、しだいに会社の思うがままの人間像ができあがるのではないでしょうか。

×

宮浦指導部七分会の新聞〝つなぎ〟から紹介したもので、筆名は〝統一男〟となっていますが、きっと新労組員の方の発言ではなかろうか。シールド自走枠払には、三池労組員はいないのです。

マンガも同紙から

一人ぼっちに……させないために

新港分会　一主婦

長い夏休みも終り、子供さんたちも元気で途校されていることと思います。

そこで、母親と子供との心のふれ合いについて考えてみようと思います。

子供が学校から帰ってきて、家のなかに母親の姿が見えないと、さびしい思いをすることは、どなたもご存知の通り。

そこで、お母さん、絵を描いて話し合うのです。留守をする時にはマジックで、自分の似顔を描いて、その横に「お帰りなさい。お母さんは、ちょっと○○に行ってきます。留守番をしっかり、お願いね」、と書き添えておきます。

学校から、わが家へ帰ってくる。お膳の上に、それが置いてある。そこに、お母さんの顔。きっと、子供さんは、ほーっとすることでしょう。

母親の似顔絵を見ながら、こんどは子供さんが母親をまねて、留守番をしている自分の様子を描いては、やがて帰ってきたお母さんに、「ほら」、といって見せてくれると思います。

このようなちょっとした、お母さんのユーモアあふれる絵によって、子供さんたちの気持がどんなにやわらぐことでしょう。

共稼ぎされるお母さんたち、いろんな方法で子供さんたちとの話し合いやつながり合いを深め、子供たちにさびしい思いをさせないための努力をしていきたいと思います。

×

三川新港地域分会新聞〝しんこう〟から紹介しました。